

一生に一度？の 素晴らしい出来事

札幌市医師会
にわ糖尿病・内科クリニック

丹羽 祐勝

地元札幌市北区に糖尿病専門クリニックを開業して9年目を無事に迎えることができました。ひとえに医師会員の皆様方の温かいご支援のおかげと感謝しております。

開業後は学会での研究発表など、なかなか困難とっておりました。せっかく拝受した「医学博士」。甥っ子に「叔父さんは博士なの？」とやや疑う目で見られ、いろいろ思案しておりましたところ、後ろ向きの臨床研究ではありますが、この8年間の患者診療データを解析し、糖尿病と合併症に関するやや興味深い結果を得ました。2017年6月に開催された第77回ADAアメリカ糖尿病学会学術集会（カリフォルニア州、サンディエゴ）に投稿し、十数年ぶりにポスター発表の機会を得ることができました。同じ学会で前回訪れた12年ぶりのサンディエゴは変わらない美しい西海岸の景色が広がり、また、天候にも恵まれました。開業後もたびたびADAに参加し米国各都市を訪れていましたが、自分の発表となると緊張感が違いました。ポスターの前に立ちながら45歳で会場に居られるだけでも非常に感慨深く感じた次第です。また、アメリカの学会の興味深い瞬間は、たまたま近隣に居合わせる米国医師と雑談ができることです。今回は昼食時に会場内のソファにて1食10ドルもするサンドイッチをほおぼりながら、日本と米国の保険診療のギャップについて語り合えました。また、早朝開催の臨床教育プログラムにも参加することができ、講演終了直後に演者へ質問したところ、慣れない英会話に快く付き合っていました。

もう1つ、幸運がありました。今回の研究成果について、当院に非常勤医師を派遣いただいている北海道大学病院内科IIの渥美達也教授と三好秀明診療准教授（現北海道大学大学院医学研究院糖尿病肥満病態治療学分野特任教授）にご助言をいただきながら福田記念医療技術振興財団助成金制度に応募しておりましたところ、同財団に研究成果を認めていただくことができました。渡米のための移動中に合格のメールが来た時の感動は忘れられません。10月開催された平成29年度同財団講演会記念品贈呈式（東京都文京区湯島）に出席させていただきました。同助成金授与に関して、これまで診療所が提出した研究成果の採用はなかったようです。周りの合格者は最新の基礎研究・臨床研究を行っている高名な大学研究室の先生方ばかりで、非常に緊張したことしか

覚えていません。帰宅後、渥美先生と三好先生に御報告申し上げ、激励とお褒めのお言葉を頂き、一生の宝と感じております。勤務医や開業医に関わらず探究心を持って臨床と研究に取り組まれる同門の先生方は数多く、その先生方の背中を追いかけながらコツコツと診療を続けてきたことが実を結んだのではないかとつくづく実感した一年でした。

誠に恐縮ながら、ここ最近の出来事を徒然と書かせていただきました。これで家族や甥に大きな顔ができるのかは不明です。まだまだ開業医としても未熟者ですので、医師会員の先生方におかれましては今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

